

STOMP でつながれ！笑顔の輪

新しい学年になった今年、「クラスみんなで目標を本気で達成したい」「学校の人でも地域の人でも、笑顔になるようなことをしたい」と、大岡の時間への夢をたくさん語り合う時間がありました。実際にどんなことをしていけるか考えていくと、身近なものを楽器にして演奏をつくっていくことで、地域の人に喜んでもらったり、一緒に交流して楽しんだりすることができるのではないかと夢がふくらみました。そして、身近なものを使って、リズムだけで音楽パフォーマンスをつくっていくことにしました。

イギリスのリズムパーカッション集団、STOMPのような演奏を目指し、「音と音の相性はよいか」「一定のリズムを保っているか」「ストンプらしさ（演奏がぴったり合っていて、おもしろい演出があることで、見ている人の心を惹きつける）があるか」という視点で演奏を高めようとしています。



はじめは、ボディパーカッション曲の「祝いの手打ち」を基本のリズムとして、さまざまな楽器でアレンジしてきました。このリズムを徹底的に胸に刻むことを目指して、休み時間や放課後などを使って日々練習してきました。音楽専科の先生に評価をいただく機会を2回もち、自分たちの演奏を見直す中で、「ストンプとは、掃除用具など本当はちがうことに使うはずのものが楽器になるところが面白さではないか。身近なもの、といってもなんでもいいわけじゃない」「ストンプのリズムはまるで和音のようにきれいに重なっている。僕たちもそれを目指したい」ということに気がきました。話し合いながら、演奏を高めるための3つの視点がどんどん詳しくなっていくことを感じました。

「もっと自分たちの演奏を高めたい。音楽の先生ではなく、初めて見る、初めて聴くお客さんはどう感じるのか」そう感じた7月、初めての校内コンサートを開くことにしました。しかし、見に来てくれた観客のみなさんの表情は全然楽しそうじゃない。これから自分たちの演奏やアンケートを振り返り、新しい視点で次の課題を見つけようとしているところです。

